

第6回総務文教常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和元年5月17日（金）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和元年5月17日（金）午後0時10分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
1 番 永徳 省二君 3 番 佐藤 武君 7 番 大口 浩志君
1 2 番 北川 勝義君 1 6 番 下山 哲司君 1 7 番 実盛 祥五君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
市 長 友實 武則君 副 市 長 前田 正之君
副 市 長 川島 明昌君 教 育 長 内田 恵子君
総合政策部長 安田 良一君 総 務 部 長 塩見 誠君
財 務 部 長 藤原 義昭君 教 育 次 長 藤井 和彦君
赤坂支所長兼
市民生活課長 土井 常男君 熊山支所長兼
市民生活課長 矢部 恭英君
吉井支所長兼
市民生活課長 是松 誠君 消防本部消防長 井元 官史君
秘書広報課長 小引 千賀君 政策推進課長 花谷 晋一君
総 務 課 長 小坂 憲広君 くらし安全課長 岡本 和典君
財 政 課 長 和田美紀子君 管 財 課 長 戸川 邦彦君
税 務 課 長 遠藤 健一君 教育総務課長 安本 典生君
学校教育課長 家森 康彰君 社会教育課長兼
スポーツ振興課長 土井 道夫君
中央公民館長 杉原 泉君 中央図書館長 矢部 寿君
中央学校給食センター
所 長 久山 勝美君 消 防 本 部
消防総務課長 檜原 秀幸君
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 元宗 昭二君 主 事 松尾 康平君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（北川勝義君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから令和元年第6回総務文教常任委員会を開催したいと思います。

初めに、友實市長のほうから御挨拶をいただきたいと思います。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、おはようございます。

今日は、皆様大変お忙しいところ、総務文教常任委員会をお開きいただきまして、まことにありがとうございます。

令和になって初めての開会でございます。また、議会の構成も変わっての最初の委員会でございます。赤磐市の現在のそれぞれの担当の事業の進捗状況を初めとして、6月の定例市議会への付託案件等も御協議をさせていただけたらと思っております。よろしく願い申し上げまして、冒頭の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

改選後の初めての委員会なので、4月にはしましたけど、職員とのは初めてなので、議員のほうから紹介させていただきたいと思います。

総務委員長の北川です。よろしくお願いします。

○副委員長（佐藤 武君） 改めて、総務文教委員になりました佐藤です。あわせて、副委員長を務めさせていただきますので、当局の皆さん、それから委員の皆さん、よろしくお願いします。

○委員（下山哲司君） 赤磐市の一番北から来ております下山です。よろしくお願いします。

○委員（永徳省二君） 永徳省二でございます。よろしくお願いします。

○委員（実盛祥五君） 実盛です。よろしく。

○委員（大口浩志君） 大口と申します。よろしくお願いします。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、執行部のほうから自己紹介をお願いします。

○市長（友實武則君） 市長の友實です。引き続きよろしくお願いします。

○副市長（前田正之君） 副市長の前田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○副市長（川島明昌君） 副市長の川島です。よろしくお願いいたします。

○教育長（内田恵子君） 教育長の内田です。よろしくお願いいたします。

○消防本部消防長（井元官史君） 消防本部消防長の井元です。どうぞよろしくお願いいたします。

○財務部長（藤原義昭君） 財務部長の藤原です。よろしくお願いいたします。

○総合政策部長（安田良一君） 総合政策部長の安田です。よろしくお願いいたします。

- 総務部長（塩見 誠君） 総務部長の塩見と申します。よろしく申し上げます。
 - 教育次長（藤井和彦君） 教育次長の藤井でございます。よろしく申し上げます。
 - 赤坂支所長兼市民生活課長（土井常男君） 赤坂支所長兼市民生活課長の土井でございます。よろしくお願ひいたします。
 - 熊山支所長兼市民生活課長（矢部恭英君） 熊山支所長兼市民生活課長の矢部と申します。よろしくお願ひいたします。
 - 吉井支所長兼市民生活課長（是松 誠君） 吉井支所長兼市民生活課長の是松と申します。よろしくお願ひいたします。
 - 消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 消防総務課長檜原と申します。よろしくお願ひいたします。
 - 税務課長（遠藤健一君） 税務課長の遠藤でございます。よろしく申し上げます。
 - 管財課長（戸川邦彦君） 管財課長の戸川です。よろしく申し上げます。
 - 財政課長（和田美紀子君） 財政課長の和田と申します。よろしくお願ひいたします。
 - 政策推進課長（花谷晋一君） 政策推進課長の花谷と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。
 - 秘書広報課長（小引千賀君） 秘書広報課長の小引と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。
 - 総務課長（小坂憲広君） 総務課長の小坂でございます。よろしくお願ひいたします。
 - くらし安全課長（岡本和典君） くらし安全課長の岡本です。よろしく申し上げます。
 - 教育総務課長（安本典生君） 教育総務課長の安本です。よろしく申し上げます。
 - 学校教育課長（家森康彰君） 学校教育課長の家森と申します。よろしくお願ひいたします。
 - 社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 社会教育課長兼スポーツ振興課長の土井でございます。よろしくお願ひいたします。
 - 中央学校給食センター所長（久山勝美君） 学校給食センター所長の久山と申します。よろしく申し上げます。
 - 中央公民館長（杉原 泉君） 中央公民館長の杉原と申します。よろしくお願ひいたします。
 - 中央図書館長（矢部 寿君） 中央図書館長の矢部です。よろしく申し上げます。
 - 委員長（北川勝義君） ありがとうございます。それでは、よろしくお願ひいたします。それでは、協議事項に入りたいと思います。
- 1 番目の事業の進捗状況について執行部から説明を願ひたいと思います。各部ごとにお願ひしたいと思いますので。
- それでは1 番、総合政策部のほうからお願ひします。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） 総合政策部資料1ページから2ページをごらんください。

第3回あかいわ映画祭りについて、実行委員会において詳細が決定いたしましたので御案内いたします。

7月28日日曜日、桜が丘いきいき交流センターで開催いたします。上映作品につきましては、資料3ページと4ページに参考資料を添付しておりますのでごらんください。

今回の映画の選定に当たっては、これまでのアンケートでいただいた御意見はもちろん、来場される年齢層の拡大を図れる映画であること、また上映に当たってトークショーのゲストがお願いできる作品であることなどを考慮しております。

午前中には、国内外でさまざまな賞を受賞し話題となっております映画「カメラを止めるな！」の上映と、上映後には主演俳優の濱津隆之様のトークショー、並行して会議室では、人気アニメ映画「ミニオンズ」を上映いたします。午後は、また見たい、見てみたいとの御意見をいただいております映画「種まく旅人～夢のつぎ木～」の上映と、佐々部清監督と俳優の井上順様のトークショーを予定しております。映画祭りの最後には、トークショーゲスト全員の皆様との交流会を開催いたします。これまで同様、託児につきましても予約を受け付ける予定としております。今回も市内外の方に旬の桃を味わっていただくイベントや、昼食を目的とした出店を予定しております。また、桃のイベントや当日の運営につきましては、県立瀬戸高校と瀬戸南高校から有志の生徒の皆さんに御協力をいただくこととなっております。チケットは、チケット取扱所で6月1日から販売の予定としております。チラシが完成いたしましたら、改めて議会事務局を通して御案内させていただきますので、ぜひ御来場いただき、また多くの来場がいただけますよう、お誘いいただけましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

引き続きまして、広報動画の公開について御案内申し上げます。

資料は5ページをごらんください。

赤磐市の事業や取り組みについて、動画を用いてわかりやすく広報を行い、市の事業を活用していただくために、昨年度作成いたしました広報動画について、ホームページなどで公開する準備が整いました。動画は、子育て、教育、健康、安心・安全、仕事・雇用、市民協働の6種類がございまして、案内役の女性とあかいわモモちゃんが、市役所や関係施設で事業の内容や市民の皆さんの様子を紹介する内容となっております。資料の写真は、動画の一場面を切り取ったものとしております。今月末にホームページで公開させていただくとともに、今後は、地区懇談会などの公聴事業や、移住・定住など、イベントの機会などを積極的に活用いたしましてごらんいただきたいと考えております。

秘書広報課からは以上です。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） それでは、総合政策部の資料6ページをお開きください。

政策推進課より、(3)公共交通について御報告します。

この公共交通につきましては、4月に開催されました前回の総務文教常任委員会におきまして、次回の委員会では公共交通についての御報告をということでございましたので、御報告申し上げます。

赤磐市では、日常の移動手段の確保、まちの賑わいの創出など、市のまちづくりの基本理念を交通の面から支えることを目指し、平成31年2月に赤磐市地域公共交通網形成計画を策定しました。計画の概要につきましては、6ページの1、地域公共交通網形成計画の概要に取りまとめております。

公共交通につきましては、まちづくりの主要な事業の1つとして、市民の皆さんの生活を支えるものでありますが、車などで移動が便利だからといって、既存のバスなどの公共交通手段を使わなければ維持していけなくなる、そうなれば減便や廃止ということになりかねません。

公共交通は皆さんの暮らしを支えましょう、皆さんは公共交通を利用して公共交通を支えましょう、そういったまちづくりにしていきましょうという思いを込め、基本理念を「人とまちをつなぎ、暮らしを支え続けるみんなの公共交通」と定め、3つの基本方針を決定し、目標達成に向け、下段にあります(4)に掲げているような市民の利用促進を図る事業を進めていくこととしております。

また、公共交通の利用促進を図る中で本計画が特出している部分として、資料7ページ(5)本計画の特徴をごらんください。

赤磐市地域公共交通網形成計画の特徴としましては、市の運行するバスについて、公共交通会議において、増便や減便、運行形態の変更の検討に着手する基準を設置したところです。この基準を用いて、すぐに拡大、縮小するわけではなく、検討を始める対象として対応を検討していくものとなります。

資料8ページをごらんください。

2、公共交通会議の役割についてでございます。

公共交通会議は、地域公共交通網形成計画の作成や計画の実施に向けた連絡調整を行うなど、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するために設置されております。したがって、市の運行するバスにつきましては、この地域公共交通会議の同意がなければ路線の変更、ダイヤの変更、料金の変更、そういったバスの基本的事項について変更することができません。地域公共交通網形成計画においては、輸送人員の実績により、増便、維持、減便、運行形態の変更等について、毎年度2月に開催する地域公共交通会議において協議をすることとしております。

今年度は計画策定後初めてとなるため、6月に開催する地域公共交通会議において、平成30年の実績に基づく協議等を行う予定としております。

続きまして、資料9ページをお開きいただきまして、赤磐循環バスの乗降調査結果について御報告申し上げます。資料10ページには、宇野自動車が運行しておりました休止前のバスの時刻表と路線図を添付させていただいております。

赤磐循環バスは午前2便、午後3便の1日5便、日曜、祝日以外の日に運行しておりました。

資料9ページをごらんいただきまして、赤磐循環バスの利用状況を確認するため、平成30年10月10日から11月6日の間、延べ7日間、15便の乗降調査を実施しておりますので御報告します。

乗降人数ですが、1便当たりの延べ乗車人数は3人から33人となっております。利用者は午前の便が多く、午後の利用者はぐっと少なくなっております。最大同時乗車人数は17人となっております。桜が丘、山陽団地の乗降者の多いバス停は資料のとおりでございまして、桜が丘、山陽団地ともに目的地として多かったものは、39のコープ山陽、40の赤磐医師会病院、41、ネオポリス線下市、42、赤磐市役所、44、下市となっております。また、どの便も最大同時乗車が発生するのは山陽団地でありました。

以上で赤磐循環バスについて御報告を終わらせていただきます。

引き続き、(4)総合計画及び総合戦略推進に係る市民アンケートの結果について御報告します。資料は別冊となっております。

PDC Aサイクルで事業の検証をしながら進めるということをございまして、毎年市民の皆様から御意見をいただいております。計画、戦略ができて、今回でアンケートとしては4回目になります。昨年度11月に実施しましたアンケートについて御報告いたします。詳細につきましては、後ほどごらんいただければと存じます。今後、ホームページ等で公表する予定としております。

概要を御報告いたします。

報告書1ページをごらんください。

調査時期は昨年11月、調査対象者は18歳以上の市民の方に対し、無作為で3,000人の方にお願ひしておりまして、1,378人の有効回答をいただいております。有効回収率は45.9%です。地域別の回収率は資料にありますとおりでございます。配布に当たりましては、地域の比重、年齢、性別に考慮しながら行っております。各項目の調査結果につきましては、前回調査と比較を行いながら、変化の動向を注視しております。

アンケートの総括としましては、69ページをお開きください。

施策の満足度と重要度の相関図による分析を行っております。A、B、C、D、それぞれの領域に区分され、特にAは施策の重要度が高く、満足度が低いと感じるもので、重点化、見直

しの領域の事業です。

70ページをお開きください。

そのAのゾーンに位置する事業は、下に表がついております網かけの部分の事業でございます。このアンケート結果につきましては、今後のまちづくりに反映するため、本年度作業を予定しております総合計画の見直しに生かしてまいりたいと考えております。

続きまして、(5)生き活き拠点強化支援事業について、情報提供をさせていただきます。資料はございません。

本事業は、岡山県が主体となってモデル事業として実施するもので、本年度、中山間地域等における集落機能の維持や確保をするために、地域拠点のあり方などについて調査研究等が行われます。その実施地域として、吉井地域が指定されましたので御報告申し上げます。

今後、岡山県や委託を受けたコンサルタントなどと市が協力して、地域の実情等の調査から始めます。吉井地域以外に、岡山県内で、備前市三石地域、美咲町旭地域の2つが指定を受けております。6月に入りまして、岡山県よりプレス発表される予定です。

政策推進課からは以上です。

以上で総合政策部の説明を終わります。

○委員長（北川勝義君） 総合政策部のほうの説明が終わりました。

これについて委員の皆さんから御意見がありましたら、意見を聞きたいと思います。

何かありませんか。

○委員（永徳省二君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 8ページ、令和元年度第1回地域公共交通会議の予定ですがけれども、出席者はどんな方が出席されるのか、御説明をお願いします。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 公共交通会議のメンバーとしましては、岡山大学の先生を初め、一般旅客自動車運送事業者の代表ということで、例えば赤磐市の委託を受けていただいている事業者さん、あとバスの運転手の組合の代表の方、あと地域の自治連合会の代表の方4名、国の方が1名、岡山県の方が2名、警察署の方が1名。

○委員長（北川勝義君） 名簿はすぐコピーできるんじゃないか。

○政策推進課長（花谷晋一君） すぐコピーできます。名簿については、後ほどお渡しするよういたします。

社会福祉協議会の会長、商工会の会長というメンバー構成になっております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 地域の方、連合会の方4名ですか。具体的に、どこの連合会の方かだけ、御説明をお願いします。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 4名の方は、山陽地域、赤坂地域、熊山地域、吉井地域ということで、それぞれ1名ずつ代表の方を出していただくことになっております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

なかったら、この間、実のところを言いまして、13日に委員長、副委員長の総務文教の打ち合わせをして、その中でちょっと指摘事項があって、それが反映されとるか、されてねえかがあったので、そのことについて聞かせていただきますんで。

1番のあかいわ映画祭りについてですけど、あかいわ映画祭りの目的は、シティプロモーションを目的として開催されるものですよということで、大体言わんとしとることはわかるんですけど、打ち合わせのときに私が聞いたんですけど、あかいわ映画祭りというのは、何を目的でやるんかと、将来的にあかいわ映画祭りはこういうことをやるんだと。これは、たまたま「カメラを止めるな!」とか「種まく旅人」、「ミニオンズ」ということでやって、あとはいろいろ、特産品とかいろいろやるようになってあるんですけど、何を目的でやるんか。これをやったために次はどういうことに持っていくのかというのがわからないということを質問して、その答えがなかったんで。たまたま言うたら、僕が考えてたのは、「種まく旅人」を赤磐市でやったんで、また次にこういうことの、また映画を撮るといのはなかなか難しいかもしれませんが、撮るようなこともやっていかにゃあおえん、どういう目的でやっていくんだというような確たるものをつけとくべきじゃないかと。それで、赤磐市のなっておる佐々部監督じゃとか、津田寛治さんは前に来られたわな、「種まく旅人」の中で。じゃけえ、「種まく旅人」の中の誰かが来てから、また広げていくようなことをするんかなとか、それで「カメラを止めるな!」というのは、誰かその人らが入ったんかと聞いたら、いや、それは違うんです、えかったからというふうになったんじゃけど、佐々部監督は、この人がええんじゃねえかということでやられたりで、それは結構な。それから子供も集めるものでええんですけど、何らかの目的がぼやけとるいうんか、次にまたこういうことをやっていきたいからやるんだと。例えば、学校づくりとか、子供のことで、何かの映画、どういうなんかわからんですけど、何かやっていただけるんかなと。何が中心なんかというのがわからなくて。そういうことも、やることに反対して言うるんじゃねえんじゃけど、ただこれをやる前も、「種まく旅人」で、岡山へ、赤磐市には悲しいかな映画館がないんで岡山へ行っていただくということで、助成金を出すということで、それは大変反対だというような意見も議会からも出とって、何らそれが反映されてねえ。何か、今までやったのが、去年は台風、災害のため中止になったけど、おとと

しやって、おととの反省というのが、こういうことになって、こんだけ来たというのがあってもええんじゃねえかなというのをちょっと思ったんで、そこら辺のことが反映されてねえ。きょうのどうこうじゃねえんですけど、7月にやられるんで、集めていただかにゃあおえんというのが1点。

それから、数が何人ぐれえ来るんならというのを聞かせていただいたと思うんです。きょうは、その説明がなかったと思うんで。約700名じゃ言うたんかな、700言われたんかな、650言うたんかな。

○総合政策部長（安田良一君） 560です。

○委員長（北川勝義君） ああ、560言うたんかな。やっぱり、そういうことを、目的このくらいじゃというのを、数が多いとかじゃねえけど、説明をしてくれんなら、総務文教委員長、副委員長が打合会をしょうの意味が何にもねえ。打ち合わせせんでもええんじゃねえか。打ち合わせして、言うたらそれを書きとめて、前、永徳副委員長がしょうられたときも、それを反映していただかにゃあおえんのんじゃ。その日だけ済んで、遊び半分で来よんじゃねえんじゃから。

さっき、下山委員が、僕も一番遠いとか言うとして、来たいことはねえんじゃ、それは、やっぱり。きちっとやってもらわんならだめだということを言ようるんですよ。それが1個あった。

それから、公共交通について。またほかのも同意見ある。これ、公共交通は、これもアンケート調査とか、いろいろなことを、どういうことをやるかということも、部長、言うたら、あの日に。

それで、公共交通も、さっき永徳委員が言われて、名簿を出すって言うたけど、その名簿は出とると思うたけえ、余り言わん。出してもらやあええんじゃけど。これは、地域公共交通網形成計画の中で会議をしてだめじゃったら認めない言うけど、もしいうたら、8ページの見直しの対象外になるとか、例えば今、山陽を回ると、それから循環バス。宇野バスさんがやめる言うたら、もうだめなんでしょう。やめる言うてもだめじゃないよと。これは交通計画で見直しはできない、やっていたかにゃあおえんのんじゃ。継続していかにかいけんのんじやいうて、そういう権利もねえんでしょう、力も。今、話を聞いてとったら、拡大するのも交通会議で該当したら拡大のほうに持っていく、縮小のほうも該当、市が何で今まで現状じゃというたら、公共交通会議が力を持つとって、やっていたかにゃあだめですよと言うたらできるんか。そうじゃねえんでしょう。何で言うたら、前の穂崎から行きようのもやめておりますが、宇野バスが。赤磐市が請け負うてやりようりますが、事業主体になって。やっぱり、それもどういう意味かなと思って。8ページの話をしよんよ。今、言われて、公共交通会議において協議をして、ええ、悪いのこを決めるように言うて、権限がある言うんじや、権限はないんじやないの。あるんじやったら、そこらも教えていただきたいのと。

それから、この間、宿題で言うとしたバスのアンケートもやってもらえりゃええんじゃないけど、9ページについて見るのを見るんじゃないけど、もうちょい見やすいようなのがいいのかなという話もしたんで、今回の公共交通会議に諮ってからやられてというのはええと思うんじゃないけど、今後そういうこともやっぱり入れてほしかったと思うたんですよ。

文句を言よんじゃねえんじゃないけど、ほかの皆さんにも、やっぱり関心を持って、個々に一般質問をされる方もおられるけど、やっぱり大事なことじゃからやっていただいとかなんたら困るのかなと思うたんで。その場だけで聞かれて、はい、終わりましたと言うたら、何らやりようの意味がねえような気がしたんで。それも踏まえて、答弁をもらえるなら答弁してください。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） 説明のほうは不足しておりまして申しわけございませんでした。

まず、あかいわ映画祭りについて補足の説明をさせていただきます。

今回の目的につきましては、今まで過去、第2回は中止になりましたが、かわりにミニ映画祭りというのをさせていただきますして、映画への関心ですとか赤磐市の文化振興、さらに広げたいと考えております。

今回の「種まく旅人」の上映につきましては、監督ももちろんなんですけれども、参加をいただきました井上順さんのほうが、ぜひ赤磐市のほうにお邪魔したいということで御意見をいただいたということで、監督のほうから御推薦をいただいたということもございました。

それから、「カメラを止めるな！」を入れた件につきましては、御説明の中でもお話ししたんですけれども、大変な話題作でございます。赤磐市に映画館がないということで見られなかった方もいらっしゃるかもしれないということで、今回入れたらどうかなということになっております。

桃のイベントをあわせてさせていただいているのは、シティプロモーションの観点から、市内の方においしい桃を召し上がっていただくということで、映画祭りにつきましては、映画だけではなくて市の特産品のPRも兼ねてということで、今後もシティプロモーションに努めてまいりたいと考えています。

○委員長（北川勝義君） 課長なあ、僕はそんな話をしようたんじゃねえ。総合政策部長も打ち合わせに出て、打ち合わせで出たことは反映してやっていただかやいけんということ言うたわけ。必要ないんじゃないたら、必要ありませんでええんじゃない。やりますと言うたら、それは話をしてくれんなら。こういう質問が出る場合があるからいうて打ち合わせをしたわけじやろう。それを言ようるわけ。

今、「カメラを止めるな！」とか、アニメの「ミニオンズ」をするけんおえんとか、子供を

集めてやってあげてというのは、関心を持たすのに。それを決めたいというのは執行権じゃけえ、決めりゃあええ。それがどうこう、それがおえんとか、ええとかじゃねえ、こういう考えに基づいてこうやるんじやということを教えてもらいたいということを言ようるわけ。何の作品がええとか、どうのこうの、井上順さんがええとか、そんな話なんか全然しょうるんじやねえ。こういう考えで、今言うたら、子供たちのために、これは関心を持ってもらいたい、地域でいろいろなことをやるんじやという、それを言うてほしかったということを言ようるだけ、僕は。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 公共交通会議の権限につきまして、御質問があったと思います。公共交通会議につきましては、市の運行するバスについての権限を持っております。民間の運行しているバスにつきましては、公共交通会議のほうが権限を持って、走らせる、とめるということができないものとなっております。

あと、資料がわかりにくいという御指摘をいただいたと思います。次回から気をつけて作成させていただこうと思います。

以上で終わります。

○委員長（北川勝義君） 公共交通会議が力を持つるように言われたから、出さなんだ言うけえ、それはわかっとなることじゃけえ、あえてそのことを確認しようたん、それから、もしやるときに、例えば、バスの広告をつけるのやこうは簡単につけるが、自分らがもうぱぱっと見て、それは執行権じゃけえ、ええと思うんじや。じゃけど、今言うたら、この間の報告は、総務文教常任委員会では、質問はそういう質問じゃなかったと思う。傍聴に来られとる方も委員も関心持って来られとる、ほかの議員も関心を持つとる。どねえ言うたというたら、山陽団地のバスの東回りか、西回りかがのうなっとなると。それから、ネオポリスの循環バスがのうなっとなると。それで行くところ、例えば同僚というたら下山委員、乗り方があるんじや、いろいろバスの、テレビでやりようたんじやと言うて、一般質問のときでええけどな言うて、次には何ばか答えられるようにしてくださいと。相手があることじゃから、そこまで追及してどうこう、副市長も、御挨拶を兼ねてからお話しすると言うたんじやけど、そういうことを踏まえて、言うた質問がそういう意味じゃったわけじゃ。どうせえとかじゃなくて。これはもう単純な費用のこと、変わらんことで意味、これじゃったら、やんわりと言えれん相手があることじゃけえ、刺激せずにやんわり言わにゃあおえんけど、いろいろ考えて言ってくださいというて、僕はこの間も、副委員長、言うたわな、そういう言い方も。ちょっと考えてほしいなと思います。

それとまた、これは見にくいなと思って、乗りようる者が見ようて見にくいなと思って。僕が見にくいんじやけえ、乗る者はまだましなんかもしれん。ちょっと見にくいというて、また

工夫も1つ。

そこらがわかりやあ教えていただきたい、結果的にアンケートをしてくれということも言いましたが、やりようも。中でいうたら、その調査してやっていくときに、花谷さんな、よう聞いてよ。また聞かなんと言わずに。市長、寝とるんかもしれんけど、よう聞いてくれにや。このバスが、なぜ利用が、要するにこれがもう、循環バスがびっぴっぴっぴ利用しようて、遊び半分で言よんじゃねえんで、だてや酔狂で、ここへ来て黙って物を言わんのじゃったら休んどきやええんじゃあ。循環バスがなぜおえんのか言うたら、赤字じゃからいけんようになるわけじゃあ。ずっと赤字じゃのうて、毎日忙しいぐらい行きようたらできるけえ、それはなぜできんのかというたら、料金が高えんかもしれんし。知らないので、じゃから、アンケートをとって、料金が高いからおえんと、ワンステップでというたらえかったんか、いろいろ今のところへちょっとこっちへ入ってくれたら、もう1カ所ここまで入ってくれりやあ乗るんですよと。乗車しようる方や区長さんとかの御意見をもらえば、特に山陽団地とかネオポリスのほうの人がもろうたら、ああ、ほんなら、ここをここまでちょっと1つ行ったら、どこじゃったかな、ミラー塾前か、少ねえんじゃとか、ミラー塾前はこうすりやあええんじゃという、そういうことを出しちゃってくれということと言ようるわけ。相手がおることじゃから、相手に、いや、あなたしなさいやこう、そんなんは言える権限もねえし、そんな話をしようるんじゃねえんで。そこらのことをやっていただきたいということ言いたかったんで。この間、そういう言い方をしたと思うたんじゃけど。じゃけえ、それがなかったら、何らもう出たことで、ぼっけえ要らんが、職員も。2人ほどおってから、ちょちょっと、傍聴の福木さんが、交通課をつくりましょう、交通課はもう初めから要らんわ。出たことをぺっぺっとするんじゃったら、何にも要りやあへん、ちょっと今思うて。

これは何のためにしようるというたら、僕はもう、打ち合わせもあつたけえ、僕ばあしゃべってもおえん、ほかの者がしゃべらんから言うんじゃけど、何についても、赤磐市をようする、きょうテレビを朝見よつたんじゃ、朝は何ですというたら、ピラミッド型になつとる都市を上から下まで長方形にしようということ言ようるわけじゃ。そうしたら、年寄りから優しい、住みやすい、どうしたら住みやすいかというたら、そこへ来たいからおためし住宅がある、来たいから来さすようなことを考えようるわけ。そういうことを何にもねえのに、終わったことの順番で、相手がおって、相手待ちだけで、相手がいけん言うたら、はいって言うんじゃったら誰でもできるがな。今、それを言いたかったんです。そういうのも踏まえて、もう一遍、わかる範囲でよろしいから、市長でも結構です。副市長でも結構ですし。副市長、この間、副市長はもう後から、前田副市長に言うと、行く言われようたから、どんなかというのを聞こうかと思つたんじゃけど、ほかの方もあつたら、部長もきちっと言ってください。わかればどういう意図が。

それと、もう1個は、これも言うたん。これはもうこんなことまで言ようたら、口幅ったい

けん、広報活動について、関係者が出とるんかいうて言うて、関係者が出とりゃあええな言うけん、もうちょっと、これも言うたら、友實後援会の報告会の際にやった、ああいう、ばあっと明るいのも出せよ言うたんよ。こういう古いのばあじやのうて、かた苦しいより、みんなが見て、ああ、おもしれえなと、こういうのがええかなという話をしてたんで、ぜひそういうことをやってほしいというか、今そう思うたんで。答えられたら答えてください。答えれなんだら結構です。

ほかの人、何かあったらでもよろしいし。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 花谷課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 質問の趣旨としまして、バスの休止を発表したのに、利用促進等をしてたのかどうかとか、そういったぐあいの質問だったと思っております。

まず、循環バスが休止になるということが決まってすぐ、広報紙において、もうバス、乗らんとなくなりますということの特集を組みまして、広報6ページだったと思います。まず、その広報を行いました。

あと、それに続きまして、そこから後、ずっとバスを使いましょうという広報をさせていただいております。そういった観点から、今回の地域公共交通網形成計画におきましても、バスは使わないとなくなるんですということを訴え続けております。

そういった格好でバスの利用促進を進めてまいりたいというふうに考えております。

○委員長（北川勝義君） 花谷課長、そういう意味のことを言いたかったんじやのうて、僕が言うたのは、それは当たり前の話でようわかる。使わにゃあなるのは、ケース・バイ・ケースじゃから。ただ、それを行政がかんでやりようるんじやから、公共交通会議もあつたりするんじやから、アンケートで、例えばここじゃから乗らんのんじやと、もう一步こっち側へ行ってくれたら、ここからじゃつたら乗るんじやという場合が。いや、ここへ行っても乗らんいう人もおるかもしれんけど、そういうアンケートをとってくれえということ言うたわけ。たまたま、料金がちょっと高けえん、ちょっと下げてくれりゃあ、もう10円、10円いうたらおえんけど、例えば今、わからんのじゃけど、場所が600円としたら、600円は便利が悪い500円で、ワンコインにしてくれりゃあ乗るんじやという場合がありますが。そういう意向を出してくれとか、時間帯を時間どおり行かずに、来たところは3分でも、乗車時間を、30秒で行かずに3分に延ばしてくれるとかという、何かそういう、ちょっとそこらのことを調査したらという話を言いたかったわけです。乗るのをふやすためにということ言いたただけで、今、花谷課長が言うた、乗らなんだからのなるんじやというのは、そんなことはようわかつとる。それはわかつとるけん、努力せにゃあおえんという。特集を組んでくれても、ほんなら特集組んでくれて何の効果が出ましたか。特集を組んでから、ほんならようけえ乗るようになりましたか。じゃから、問題点をさせていただきたいなと思うたん。答えられなんだら答えんで

もええし。

それから、前田副市長、行かれていたのを、またよろしい。言える範囲で。

安田部長。

○総合政策部長（安田良一君） 委員長からの御提案で、アンケートをとって、これは宇野自動車様、赤磐循環バスというのは宇野自動車様、民間の方がされている中で、経営判断ということで、今回は1年間休止ということで、休止をされている中で、市としても路線の再開に向けて協議をしている中で、今の委員長の御提案があったアンケートをとって、そういうものもお見せしながらいろいろ協議をしてはどうかというお話を、今御提案をいただいたんですけど、それについて、なかなかアンケートをどうとるかとか、民間の方でありますので、方法論についてもなかなか難しいところはあるのかなとは思ってるんですけども。

○委員長（北川勝義君） 僕ばあしやべつとるけど、2日ほど前、けちな言うたらおえんけど、シビアなところ、両備バスが、両備のバス停をして、駐車場、停車場かしてから、やっぱり人気があって、バスからバスに乗るというてテレビに出たりしょうて、やっぱりそういうなんもアイデアで、何分後とか。

それで僕は今、民間じゃからなかなか言いにくい。休止じゃのうて、廃止じゃったら、またやりやすいと思う、それは今言ようことな。廃止してほしゅうねえ、休止もしてほしゅうねえんじゃけど、最悪の場合じゃったら乗らん人が、例えば3人しか乗らんのかじゃったら、そんなに大きいバスじゃのうて、ほんまに軽四でもええんじゃねえかと思うて。小めえバスで何遍も小回りがきいて、小めえバスじゃと奥まで入れるというのも一つの方法じゃし。例えば、今まで5人しか乗らなんだから、いろいろなことがあってふやしたがために15人も乗るようになったら大きいバスを出しやあええし、臨機応変に考えていきやあええんじゃねえかと思ようわけじゃ。

その中で、今アンケートの話で、民間企業がしょうるけど、民間企業がするんだって、乗るのは民間企業じゃねえ、赤磐市民が乗るんじゃから、どういうふうなのができるかと、宇野バスさんが補助金を受け取ってくれるか、くれんかは別で、こうやったらこう、それから乗る場所の、今までこれだけの場所しかしてねえけど、まだその間に、新しい団地じゃねえけど、集合体がふえたから、個体がふえて、そこのところへバス停もつけるんですよとか、そういうことをしたら、それならうちもええよと言うて、そのためにはバス停は赤磐市が整備してつけますよと。それから、例えばユニークなバス停でも、桃のついたようなバス停も全部つけますよと。この間もちょっと関係ねえ総合政策部のほうで、言うたのがこの広報活動もええのをつけてくれえ言うた。あかいわモモちゃんも余り評判がようねえよというて、こういう話をしましたが、僕はええと思うても、なかなかそういうのが出とるんで、そういうことも踏まえてアンケートをやっただけりやあなと思うたということを書いたかったんじゃ。これは、そうじゃなかったら、この間聞いた、4月の委員会をしたときの、ここへおられた人が、聞かれた方

が、4月の委員会で、おお、ええ答えをもろうたと思うと人は誰もおらんのじゃねえかと僕は思うとるわけなんじゃ、今。それで、じゃからというて言わせてもらようだけじゃ。

副市長。

○副市長（前田正之君） 私のほうから、御報告を兼ねましてです。

宇野バスの社長のほうに、私のほうからぜひともお会いしたいというようなことで伺わせていただきました。社長もお忙しい中で、なかなかお時間をとっていただけなかったんですが、先日、私のほうの申し出に対しまして、こちらのほうまでお訪ねをいただきまして会うことができました。約30分程度のお話をさせていただきました。民間の社長さんですので、いわゆる経営戦略とか、世の中のバス、公共交通のいろんなお話をさせていただきました。そして、私のほうからは、この循環バスが休止という今の状態になっとるわけですが、この路線の休止から復活をしていただけるというような要望をさせていただきました。強くさせていただいてるんですが、宇野バスの社長さんももちろん、経営という中でこの決断を決められておられて、お会いした中でいい感触というものはすぐいただけてないというのが現状でございます。

しかしながら、訪ねていただいたということは、赤磐市とこれから、こういった公共交通のあり方、そしてバス路線、経営をされていく中での何か接点を持っていこうというようなことを言っていただけましたので、私もこれは引き続き、時間をそんなにかけるものではなく、一生懸命、私自身も担当課と一緒に、何か糸口を見つけていきたいというような感触を持ちました。

先ほども委員長から、いろいろ、このままで単純に交渉してもいけない。何か市としても、こういうようなことがあるからお願いしたいんだというような具体的なものを持っていかないといけないと思いますし、今のままの状態で復活していただいても、また同じ現象を繰り返すだけということだと思います。

先ほど、委員長からは、ニーズ調査の辺のお話をいただいたんじゃないかと思います。なるほどなというような思いを私は持っております。きょういただいた意見で、何か、どういった形のニーズ、全然バスを利用されない方のニーズというのも必要ですが、バスを必要としている方とか、いろんなパターンがあると思います。どういう形でニーズを集約するのがいいかというのをまたこれから担当課と一緒に模索していきたいと、きょう委員長のほうから、ニーズ調査が必要だということを改めていただいて、今後そういったものを明確化していくということは必要だなという感触を持ちました。

私のほうから、宇野バスの社長さんとのお話の御報告をさせていただきました。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 佐藤委員。

○副委員長（佐藤 武君） 総務委員会は初めてなので、委員会の中で説明があったかもしれ

ませんが、まず、循環バスについては、今休止状態ということでいいんですよね。そうした中で宇野バスさんが、復旧もあり得るといいと思うんですけども、循環バスを走らせるということは、市民バスは走らせないと、走ることができないということもあると思うんですけども、宇野バスさんとしては撤退というような明確な回答というものはないんですよね。

そういうことで、今後、委員長が言われたように、市民アンケートということも必要となると私も思いますけれども、いずれにしましても、利用者の報告も資料として提出されました。そうした中で、私もネオポリスの市民の方から、休止といえども、やっぱり今まで利用した方にとっては困るんだというような意見も聞いておりますので、何らかの形で循環バスの復旧とか、あるいは市民バスへの切りかえというような方向で、早急な回答といえますか、市としての方向づけといえますか、そういうものが必要になってくるのではないかなと思っております。いつまでということは、なかなか言いにくいとは思いますが、早急な形で方針を出していただければなというふうに思っております。

質問か何かわかりませんが、以上です。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 市として、単純に再開してほしいというふうに宇野バスさんに言っても、恐らくしてくれないと僕は思うんですよ。もっと具体的に、こういう施策を打って、乗車率、乗車人数をふやしますよと。例えば、中央公民館で雷門さんと呼んで、バス時間に合わせて落語会を例えば実施しますと。市がそういう企画をすることによって、乗車率、乗車人数をこれだけふやしますよと。そのほかにもいろんなイベントがあると思うんですけど、そうやって宇野バスさんに、市としてはこんなイベントをして、こうやって宇野バスさんの経営が成り立つような、採算性が出るぐらいの乗車人数を確保するようにしますよという提案をしないと、恐らく宇野バスさんは再開することは僕はないというふうに思います。だから、そういうことをいかに企画するかというのが、実は皆さんのお仕事であって、それをどうするのかを考えないといけないんですよ。というふうに思います。ぜひ考えてください。

○副市長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 前田副市長。

○副市長（前田正之君） 私もそのように思っております。休止に至ったわけですから、このままの状態でただ再開をとということには至らないと思っております。先ほどから、委員長、永徳委員のほうからいただいておりますように、何か次のものをもって交渉していくというのは必要だと思います。しっかりとその方策を探っていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 市長、いろいろなことがあるんじゃないけど、民間がやりようることじゃし、簡単にそんな、今永徳委員が言ったこともできるか、できんかわらん。僕らもどうなる

かわからん。粘り強く交渉していただかにはやおえんという、前も下山委員が、よう見て再々行けて、こういうぐらいに行ってもらわにはやおえんかもしれん。それから、タイミングも見て図らにはいけん、いろいろなことがあると思うんじゃけど、余りにもタイミングばあ図りょうて、ずっと2年も3年も図りょうたら忘れられてしまうんで、そんなことも相手もねえと思うんじゃけど、何らかのことを、ちょっとアクションを起こすことも1つの、時間ができりゃあ市長、膝詰め談判で社長とも会って話をさせていただくのも1つの方法じゃねえかなと思うんで、よろしくお願ひします。そういう気持ちがあるわな。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 宇野バスが休止で、権利を持つとる以上は、もう赤磐市は手が出せんということかな、同じ地域内で。その辺だけはっきり答えといてほしい。できんことはねえんで、できるんじゃと言うのか、宇野バスがきちっと手を切らん限りは手が出せれんのじゃと言うんか、どっちなんですか。その辺を明確に今まで話が出てないんで。いつまでたっても、ずるずるずるずる行くだけで、やっぱり実際に赤磐市としてはこうするんじゃという形が今までずっと明確に出たことがないので、その辺だけ答弁ください。

○委員長（北川勝義君） 市長、今、下山さんが言われようるのが、穂崎からのうなりましたがん、日曜日とか行きようるバスが。それで宇野バスがバスを寄附してくれて、これは赤磐市が行きようるが。ということは可能なわけです。これはどっちかいうたら、都合のええのだけ宇野バスがしてくれえと言ようのと同じで、例えばの話じゃけど。逆じゃったら、もう休止しとるんじゃ、その間は赤磐が市民バスを出してくれてもええんじゃねえかという議論。そこらが法的に、今のことができとるということは問題ねえんじゃねえかと思うんじゃけど、どういうやり方が、刺激せんのがええんよ。ほかの路線が、この路線だけじゃたら、ほかの路線があつたらやっぱりということもあるんじゃろうけど、そこらのところは、法的に、下山さん、法的にも説明願わにはやおえんけど、法的でええかどうかわからんけど、どんなですか、市長、そういうことも踏まえて。下山さんが今言われようるような。できんことはねえんじゃけど、しちゃあいけんような、それをせえとは言わんです。どんなんかな。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 制度面については、後ほど担当から説明させます。

これは非常に深い問題がありまして、この循環バスが不採算だからやめていく、やめたら、その不採算の部分をも市民バスが引き継ぐという構図ができ上がってしまうと、次はじゃあ、例えば吉井方面へのバスが不採算だからやめて、やめたら市民バスが引き継ぐと、そういう構図ができ上がるのはいいこととは思えませんが、ですので、そういった形ではなく、宇野バスにとっても利益の上がる方策、赤磐市民にとっても利便性が増していく方策、こういったものをお互いに知恵を出し合いながら解決を目指すということが必要だと私は思っております。

○委員長（北川勝義君） 言ようことはわかるんですけど、どうしたらそれを。法的なことは言わんのかな。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 花谷課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 法的なことを申し上げますと、基本的にバスが休止しますと、その路線はバスが走っていないこととなりますので、その後にバスを走らせることは法的には可能です。ただし、今回の場合、宇野自動車さんが休止されたバスは、それ以外の路線を同じバスが走っていたり、その近隣をバスが走っております。民間バス事業者さんは、このバスをやめることによって、市民の方、使われている方のライフスタイルが変わり、近くのバス停へ行かれたり、いろいろな方法で移動手段をされる。ですから、1カ月もすれば基本的には移動になれて、違うバスに乗ってくださるといってお考えを持っておられます。ということは、そのバスに乗る方を改めて赤磐市がその路線にバスを走らせて、赤磐市のバスにお客をとっていくということになります。そうなりますと、民間バス事業者さんとの折り合いも悪くなりますので、まず……。

○委員長（北川勝義君） あほうなこと言うな。何を寝ぼけて言よんじゃ。それは違うぞ。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 前から言ようことなんじゃけど、赤磐市として公共を含めた全体像ができてねえから、物事が考えれん、前へ進む話なん。じゃから、僕が言うのは、赤磐市全部の関係と、それから近隣に出入りするコースも含めて、通学の前から言よう話で、全くその全体像というのが示されんから、一部分の充てかえの話ばっかしなんよ、今まで。それじゃいけんのんじゃということ。じゃから、その辺の考え方はどうならと言よう。じゃけん、市長じゃなけりやできんじゃろう。職員さんが勝手にするわけにはいかんのじゃから。市長が、私はこう思うとるから、こういうふうにしたいんじゃという話をしてもらえんでしょうかと言よう。どうですか、市長。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 考え方としては、先ほど申し上げたとおりです。民間事業者と市民バス、あるいはタクシーもあります。そういったものが、それぞれの利益を守りながら、あるいは利益をふやしながら、この将来にどう形成していくかというのは考えないといけないということは思います。

しかしながら、答えは一通りじゃありません。たくさんの答えがあろうかと思えます。そういったものを、ニーズを聞きながら、考えを常にしていけないといけないものと思っております。仮にここで答えですということで交通計画ができたとしても、それは実施をしながらまた姿を変えていくということになろうかと思えます。そういうことで、絶えずそういった計画を

模索しながら進めていきたいと思えます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 先ほど委員長が言ようたのは、現況調査というものがまだ完全にできてねえということじゃな、現状。現況調査ができてなかったら、考えもできんのじゃろうし、じゃから、一番に赤磐市が今どういう現状なんかというのが示せるように、まず一番にするのが、そうすればいろんな人の知恵が加わってくるかもしれないけど、何にもねえところで、ほんならどうせえいうて、知恵の出しようもない。それが基本じゃねえか、委員長が言うたように。それが正しいんじゃねえかと思うんです。その辺の答弁だけください。

○委員長（北川勝義君） 市長、今、下山委員が言ようることじゃねえけど、ニーズ調査、副市長もやらにゃあおえんって、やってもらえりゃあええんじゃけど、結果的に、大津市もこの間、市長も再々挨拶しよう大津市の事故もあったり、いろいろ。吉井でも今言うのは、免許返納せにゃあおえんのじゃねえかという話も交通安全の痛ましい赤坂の事故があった話ですけど、いろんなことが出て、話があるんですよ。じゃけど、やっぱり吉井で言うたら免許証を払うたら、この間も言ったんです、実はきのうも話したんです、免許証を払うたら、どねえするんなら言うて、行けりゃへんがなと、これは医者も行けんし買い物もできんがなという話になって。そういう全体的な、毎日じゃのうても、全体的なことを網羅するようなことをちょびつとずつ考えてもらいたいと思えます、調査して。そうしたら、地域的に、山陽は山陽のやり方があるし、吉井は吉井のやり方、赤坂いうて、やっぱりそういうなんで。それから、大きい美岡ができた、いろんな大きいのを。

市長に僕らが生意気なことを言うんじゃねえけど、機構改革をようされるんじゃけど、交通課ぐらい本当につくらにゃいけん。きちっとしたところは、交通局じゃねえ、局までつくれじゃねえ、部とかつくれじゃねえけど、やっぱりそういうのがなかったら。今度は国土交通省へおった川島さんが副市長で来られとるんじゃけえ、行きやすうなるが、そのくらいのことは、認可をとりやすいわな。とんとんとん。いや、僕は今そう思うたりして、ちょっと市長、副市長やこうが言われることもよう重々わかるとるんじゃけど、やっぱり乗られるほうは、例えばどこかの施設をつくってくれ、入りたいんじゃ言うたら、私が入りようるまであと3年も5年も待ちょうりゃあ死んでしまうという人もおられるんじゃ。じゃから、そういうことも考えていただきたいなと思うて。ちょっとそれを言いたかったんで。今後考えて。今、下山さんがどう考えとるんならというて言われるのも、市長もさっきの、市長の肩を持つんじゃねえけど、さっきの言葉じゃと思うんで、どうせえいうのはなかなかできにくいと思うんで。そのくらいで、下山さん。

他にありませんか。

佐藤委員。

○副委員長（佐藤 武君） ごくごく簡単なところなんですけど、あかいわ映画祭りについてということで、これはもう恒例の事業ということで認識されつつあるのかなというふうに思います。そうした中で、これはもう第何回とか、やっぱりシティプロモーションを目的とするのであれば、やっぱりこれだけ積み重ねてきたということがわかるように、第何回あかいわ映画祭りというふうな表現をされたらいいのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔委員長交代〕

○秘書広報課長（小引千賀君） 副委員長。

○副委員長（佐藤 武君） どうぞ、お願いします。

○秘書広報課長（小引千賀君） 申しわけありません、資料のほうには第3回というふうには載せていないんですが、チラシには第3回と載せる予定としております。

○副委員長（佐藤 武君） はい、ありがとうございます。

〔委員長交代〕

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） 最初の質問の続きですけど、8ページの地域公共交通会議、先ほど出席者の説明を聞いた限り、大学の教授とか専門家はいたんですけど、地域から4名ということで、これは余り市民目線になってないという気がするんですけど、もうちょっと市民の数をふやすようなことは考えておられないんでしょうか。

○委員長（北川勝義君） 誰が答弁するんか。

安田部長。

○総合政策部長（安田良一君） 市民目線をということで委員さんに、市民の方をふやしたらどうかということなんですけれども、それにつきましても交通会議の中で決めていくお話だとは思いますが、その市民目線をどう反映するかということにつきましては、そういう御意見をお伝えはしていきます。

ただ、市民目線を把握するために、今回の計画をつくる中でもアンケート調査とかもやっておりますので、そういうものも活用しながら、お声は拾っていったというふうには考えております。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（永徳省二君） はい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、総合政策部のほうは終わりたいと思います。

次にありましたらお願いします。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、教育委員会の資料をごらんください。資料の1ページをお開きください。

赤磐市東京2020ホッケー競技国内キャンプ誘致活動についての関係で、ホストタウン構想に係る赤磐市の登録決定についての御報告をさせていただきます。

委員の皆様方には、先月4月26日の報道発表の前に事前に電話連絡させていただいた件でございます。このホストタウン構想の目的といたしましては、東京オリンピック・パラリンピックの開催により、多くの選手や観客が来訪することを契機に、全国の地方公共団体と大会参加国、地域との人的、経済的、文化的な総合交流を図るとともに、地域の活性化等を推進することを目的としております。登録につきましては、今回が第13次登録となりまして、岡山県では5番目の登録となります。ホストタウン交流計画といたしましては、ニュージーランド女子ホッケーチームの合宿の受け入れをI P Uと連携して行う予定にしております。このホストタウン登録をされますと、国からの財政支援が受けられます。具体的には、ニュージーランド女子ホッケーチームの合宿受け入れ等の経費を特別交付税の2分の1で事業の財源確保に努めてまいります。

続きまして、チャレンジデー2019の説明をさせていただきますので、お手元の資料の2ページをお開きください。

チャレンジデー2019ということで、ことしで赤磐市は10回目の参加となります。対戦相手は、秋田県能代市で、全国一斉に5月最終の水曜日、ことしにつきましては5月29日の実施となります。市民の皆様には、広報5月号、市のホームページ、新聞折り込み、また各種団体等を通じてお知らせするようにしております。議員の皆様方も積極的な御参加と市民への参加周知のほど、御協力方お願いいたします。

以上、スポーツ振興課から報告させていただきました。

○中央図書館長（矢部 寿君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 館長。

○中央図書館長（矢部 寿君） 図書館から、(3)の資料搬送サービス施行の協力施設拡大について説明いたします。

この事業につきましては、図書館以外の施設で図書資料等の返却を受け付けるサービスとして実施しております。現在、山陽公民館、西山公民館、高月公民館、笹岡公民館の公民館4館の協力を得て実施しておりますが、今年度6月から新たに、桜が丘いきいき交流センター及び仁堀出張所の協力が得られることとなり、協力施設を拡大して実施することとなったものです。これまでの4施設とともに、6月から今年度末までを試行期間とし、支障なく実施できることを確認して本格導入につなげる予定です。

また、参考として利用実績を示しております。件数は多くはありませんが、交通手段がな

く、返却期限が近くなったために利用したというお声をいただいております。

(3)については以上で説明を終わります。

引き続きまして、(4)の岡山連携中枢都市圏図書館相互利用について説明いたします。

5ページのほうをごらんください。

この事業は、岡山連携中枢都市圏内で各市町の市民が各市町の図書館を利用できることとした制度です。この制度による赤磐市民の他市町図書館の利用数は、平成29年度は延べ230の方が931冊貸し出しを受けました。平成30年度については延べ853の方が3,398冊の貸し出しを受けました。また、各市町の図書館がこの制度で貸し出した数を2に上げております。平成29年度、平成30年度ともに、赤磐市図書館の利用が多い結果となっております。

以上で説明を終わります。

○委員長（北川勝義君） 教育委員会は終わったんか。

○中央図書館長（矢部 寿君） はい。教育委員会、以上で終わりです。

○委員長（北川勝義君） 教育委員会の説明が終わりました。

委員の皆さん、何か質問がありましたらお願いしたいと思います。

ありませんか。

ちょっと僕は言うたんじゃけど、ホッケー場の国内キャンプのあれで決まったということで、ホスト登録できたということでやられること、ぜひ事前キャンプもできるようにしてもらいたいという話もして、そういう中でせっかくホッケー場ができたんで、こけら落としじゃねえけど、何かやるべきじゃねえかというのも話をしたりということと。

それから、もう1個が、せっかくこういう施設ができたのに、熊山地域の方は知っとったり、それからホッケーに関心ある方は物すごう知っとるが、関心がねえ人はなかなか知られんと思うんで、せっかくの、できたら要覧じゃねえけど、どういう施設ができてどうなったというのをパンフレットをつくるべきじゃねえかなと思うとるんで。これは、市長、教育委員会と相談してやっていってから、これ1回じゃのうて、これだけのホッケー場のあれにしとったら、オリンピック仕様じゃというたらすげえと思うんで、こういうようなのもちょっとPRするのに使うべきじゃねえかなと思うたんです。そういうこともやっていただけるかどうかというのを関心があった。ちょっと話は違うんじゃけど、お答え願いたいと思います。2点。どんなんですか。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） まず、1点目の完成したときのこけら落とし等のことでございますけれど、ニュージーランドの女子ホッケーチームを招いたときに、何らかのそういうことをしたいと考えております。

また、先ほど言われた熊山運動公園につきましては、オリンピックの人工芝等で、来ていた

だけるといふことで、パンフレットをつくって、全国また世界にアピールしていけたらと思っておりますので、パンフレットの作成等を考えております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） せっかくつくったんじゃから、関係者は知っとると思うんじゃけど、関係ねえ人は、ホッケー場どうだ言うてもわからんのもおるし、いろいろ赤磐市ってええうわさが立たなんだから、やっぱり今度はこうして、今度はこういうええホッケー場もできたんじゃと、パンフレットもつくったたらPRにもなると思うんで、ぜひ市長、お願いしたいと思っております。

それから、ほかの、ニュージーランドのこともええんじゃけど、やっぱりそのときに合わせて何かやるとして、ニュージーランドのときに記念してやりゃあええんじゃけど、高校生だと、近隣のがおりましたが、この間、全日本女子だったんかな、あれ。あんなんでええけど、何かあるのをちょっと使うてもらえりゃあええんかなと思うて。特に、環太平洋大学も力を入れとるんじゃったら、何か入れるか、子供はちょっとわからん、どこまでしょんかわからんじゃけど、瀬戸高かな、瀬戸高があるんかな、ホッケーというたら。瀬戸高を使うとか、何かちょっと広めてあげたほうが。何でこういうこと言うというたら、この間も僕のところ電話があったのは、土曜日のあれがえかったない話、瀬戸高の書道部が書いた交通安全のえかった、よそやこうよりは物すげええかったという評判が、久しぶりにええニュースを聞いたり、電話で話もしたんで、そういうのがあったら物すごい元気になるといふか、今そう思うんで、ぜひお願いしたいと思っております。

他にありませんか。

大口委員。

○委員（大口浩志君） もしわかれば教えていただきたいんですけど、ホストタウンの登録の中で、倉敷が同じニュージーランドになつとるようなんですけど。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 土井課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） ホストタウン登録を倉敷はしとるんですけど、一応倉敷のほうは柔道で来たいといふことで、あちらのほうにアプローチをしとるということをお聞きしております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） そういうことでしたら、同じ国から来られるので、特に熊山地域は柔道にも力を入れておられる地域柄のように聞いておりますから、もし可能であれば、倉敷市との連携もまた考えていただくと、相互の行き来がもしふえるんならよろしいんじゃないかなと勝手なお願いかもしれませんがお願いしておきます。

○委員長（北川勝義君） 市長、できるんか、そういうようなことは。

○教育次長（藤井和彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 次長。

○教育次長（藤井和彦君） 倉敷市とも協議しながら進めたいと思いますけれども、実際にニュージーランドが倉敷に来るか、強豪ではないということを聞いておりますので、実際に来るかどうかはわからないですけれども、連携をとっていきたいと思います。

○委員長（北川勝義君） 要らんことやけど、大口さん、こっちの磐梨の武道館のほうが、向こうへ見に行ったり、行くのはできるかもしれんけど、向こうからこっちへ来てくれと言うたって、なかなか難しいかもしれんわな。正直、ホッケーがあるからいうて、ほんならホッケーをしようところがあるけえ、ちょっと真庭へ来てくださって、うちのほう来たから行くというのは、難しいんかな。何かちょっとそう思うたな。要らんこと言うたらおえん、相手のことがあるけえ。特に、オリンピックというたら難しかろうけん、要らんことを僕らが言ようたら。できたらそうしてください。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで終わりたいと思います。

事業の進捗状況は、これでよろしいですか。ありますか、どこか。

○総務部長（塩見 誠君） 以上で終わりです。

○委員長（北川勝義君） なければ、次のその他に入りたいと思います。

その他、何かありますか。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） それでは、総合政策部の資料11ページをお開きください。

令和元年6月議会定例会提出予定議案について、御説明させていただきます。

(1) 令和元年度赤磐市一般会計補正予算案（第1号）についてでございます。

政策推進課の本補正予算では、プレミアム付商品券の販売を行うため必要な歳入歳出予算それぞれ2億8,636万9,000円の補正を予定させていただいております。

プレミアム付商品券事業は全額国庫を予定しておりまして、一般財源の充当はございません。

歳入としましては、国庫補助金8,636万9,000円、諸収入としまして、プレミアム付商品券の販売収入として2億円が歳入でございます。

歳出につきましては、主なもののみ説明をさせていただきます。

企画費のプレミアム付商品券事業でございまして、歳出の2つ目にあります需用費624万円、これはプレミアム付商品券事業に係る事業用消耗品代と商品券の印刷代を見込んでおりま

す。

次に、役務費1,460万8,000円、これはプレミアム付商品券事業に係る郵送料等の通信運搬費と販売や換金に伴う手数料となっております。

次に、委託料1,343万6,000円を見込んでおります。プレミアム付商品券事業に係るシステム保守等の委託料と、労働者派遣業務委託料でございます。

1つ飛ばしまして、負担金、補助及び交付金としまして、2億5,000万円計上させていただいております。これは、プレミアム付商品券を利用した店舗に、その商品券と引きかえにお支払いする交付金でございます。

引き続きまして、(2)平成30年度赤磐市一般会計予算繰越明許費繰越計算書について御説明申し上げます。

12ページをごらんください。

繰り越しをさせていただいた事業は1件ございまして、事業名プレミアム付商品券事業、事業内容としましては、補正予算と同じでございまして、消費税率引き上げの影響緩和、地域における消費喚起を目的としたプレミアム付商品券の販売準備を行うものです。繰越額は319万7,000円。完了予定日は令和2年3月31日を予定しておりまして、繰越理由としましては、補助金の交付決定が平成31年3月29日にございましたので、その後の事業着手となるため繰り越しをさせていただいているものでございます。

政策推進課からは以上です。

以上で総合政策部の説明を終わらせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 説明が終わりました。

何か、委員の皆さん、質問はありますか。

副委員長。

○副委員長（佐藤 武君） プレミアム付商品券の配布対象者といいますか、それはもう過去の委員会で説明があったんですかね。わからないので、お願いします。

それと、30年度の繰越明許ということで、30年度から繰り越しをされてるんですけども、これはプレミアム付ということで、景気回復、影響緩和、消費喚起という目的なんですけれども、これは30年度からこういう目的で商品券の販売というものがあつたと理解していいんですかね。そこら辺をお願いします。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） まず、購入対象者につきましては、低所得者対策と子育て世代の消費対策ということで、2通りございます。

1つ目としまして、2019年1月1日時点で赤磐市にお住まいの方のうち、2019年の住民税が非課税である者ということで対象となっております。この住民税が非課税といいましても、例

えば同一住居に課税の方がおられた場合、この方は非対象者となります。

2つ目に、子育て世代についての対象者としまして、2016年4月2日以降に生まれた方から2019年9月30日までに生まれた子のいる世帯主、したがって、ことしの10月1日現在で2歳半までの子供を抱えている世帯主の方に、子供1人につき2万5,000円のプレミアム付商品券が2万円で購入できるということで、2つの対象者になります。

最初に御説明差し上げました住民税非課税世帯も、同じく2万5,000円の商品券を2万円で買えるというような事業になっております。

もう1つ、平成30年度からそういう事業が見込まれてたかということなんですが……。

○委員長（北川勝義君） 該当世帯と該当数。

○政策推進課長（花谷晋一君） 該当数につきましては、非課税世帯を8,500人、子育て世代を子供1,500人を見込んでおまして、合計で1万人を見込んでおります。

続きまして、平成30年度からそういう事業があったのかということでございますが、30年度後半からそういう動きが出まして、30年度から準備をするということで国から補助金の交付決定をいただいております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 副委員長。

○副委員長（佐藤 武君） 余り詳しくやったら事前審査になるので、申しわけない、余り詳しい答弁を求めるつもりはなかったんですけども、本番でやらせていただきたいと思いません。

○委員長（北川勝義君） 本番というても、3歳未満児が1,500人と非課税世帯が8,000人だけのことやろう、別に。

ひょっとしたらこれは、僕が疑問に思えるのが、2万円を単純な話でもう、2万円を2万5,000円にして5,000円プレミアムをつけてやる、プレミアム付商品券でええんじゃけど、それで該当が3歳未満児と、今2歳半、それから非課税世帯、それで行きゃあ1万人ですけど、1万人行きゃあええんじゃけど、9,500とか9,000だったあとの1,000は返すんじゃないかと、補助金返還するということじゃな。市で処理とかじゃなしに、もう全然ということすな。

それから、今冒頭に言った国の事業でするから、全然経費は要らんということの話だったな。今言うた、それで1個言うと、労働者派遣業務というのは、これは何なら。それだけちょっと教えてくれりゃあええのに。ちょっとわかりにくかった。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） これにつきましては、臨時職員を確保するために……。

○委員長（北川勝義君） ああ、臨時職員のか。

○政策推進課長（花谷晋一君） はい。臨時職員を組ませていただいているんですが、確保でき

ない場合に人材派遣会社から派遣いただく経費でございます。

○委員長（北川勝義君） 臨時職員がおえんときに、労働者派遣のところで作るという話。というたら、例えばどういうところ。シルバーとか。

○政策推進課長（花谷晋一君） 普通の民間の……。

○委員長（北川勝義君） 普通の民間か。

○政策推進課長（花谷晋一君） はい。労働派遣会社。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

他にありませんか。

なければ、総合政策部を終わりたいと思います。

続きまして、総務部。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） くらし安全課から、令和元年度赤磐市水害特別防災訓練について御説明をさせていただきます。

資料1ページをごらんください。

前回の委員会でも御紹介をさせていただきました6月5日水曜日でございます。図上訓練と避難訓練を行います。訓練項目等につきましては、5番に表示をしております、防災体制の段階的な強化、情報収集、伝達、災害対策本部の運営等でございます。

次のページをごらんください。

今回の訓練は、いわゆる会議室といいますか、災害対策本部の訓練とあわせて、旧吉井町の草生地区の方々に御協力をいただきまして、実際に地区内の各御家庭から避難所として想定をしております吉井B&G海洋センターへの避難の訓練、実動の訓練をあわせて行う予定としております。現在、区長さんからお伺いしている限りでは、20名程度の住民の方が御協力をいただけるということでお伺いしております。

くらし安全課からは以上です。

○総務課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○総務課長（小坂憲広君） 続きまして、資料の2番になります。令和元年6月議会定例会提出予定議案についてでございます。

総務課から、まず(1)になります、岡山市市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の増減及び岡山市市町村総合事務組合の規約の変更についてでございます。こちらのほうですが、平成31年3月31日をもって、東備農業共済事務組合、それから勝英農業共済事務組合、倉敷地区農業共済事務組合、それから津山地区農業共済事務組合が解散しております。これによりまして、脱退することになります。

それから、令和元年10月1日から八ヶ郷合同用水組合が新規に加入すること。それから、共同処理する事務を追加する団体、こちらのほうがありますので、そちらの承認並びにこれに伴う組合規約の変更についての議決をお願いするものでございます。

続いて、(2)になります。令和元年度赤磐市一般会計補正予算になります。

こちらの内容ですが、歳入といたしまして、総務費、国庫補助金239万1,000円の増額でございます。こちらのほう、次の歳出のほうにも関連してきますが、平成31年度、社会保障・税番号制度システム整備費補助金の額の決定による増額でございます。

続いて、歳出です。電子計算費、こちらのほうの239万1,000円の増額でございます。先ほどの歳入予算、こちらのほうを丸々歳出予算に充当することになります。内容につきましては、マイナンバー制度に係ります中間サーバー、こちらの更新時期が約2年後に控えておりますので、そちらの準備への費用、こちらのほうを計上する予定にしております。

歳入歳出とも239万1,000円の計上ということになります。

総務課からは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 総務課からの説明が終わりました。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） くらし安全課から、平成30年度赤磐市一般会計予算繰越明許費繰越計算書についての御説明をさせていただきます。

資料の5ページ目をごらんください。

繰越明許費計算書についてでございます。事業名は防災行政無線管理事業でございます。事業内容は住民への情報伝達体制強化を図るためにコミュニティFMを整備するものでございます。繰越額は1億1,659万1,000円でございます。事業の完了は令和2年2月28日の予定です。完了後は、FM放送運用開始となります。繰越理由としましては、国庫補助金の補助決定の追加等によるものでございます。

なお、運用開始後につきましては、令和2年度予算になると思いますが、避難所等としております小中学校の体育館、公民館等の公共施設を中心に、自動起動するようなラジオを導入する計画としております。

くらし安全課からは以上です。

○委員長（北川勝義君） 総務部の説明は終わりました。

委員の皆さん、何か質問はありますか。

○副委員長（佐藤 武君） ちょっといいですか。

○委員長（北川勝義君） 佐藤委員。

○副委員長（佐藤 武君） 確認をさせてください。

市町村総合事務組合ですか、これの中で、共同処理する事務の追加ということで、柵原、吉

井、英田火葬場施設組合、一部組合議会議員の1人になってるんでちょっと確認したいんですけども、当然、事務組合に加入するわけですから、これは加入の理由というのは把握はされているのでしょうか。

それと、その一部事務組合議会があるんですけども、これで当然、その議決を経て、こういう規約の変更ということになりますので、組合議会で今後諮られるということなんですか。

○総務課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○総務課長（小坂憲広君） 組合のほうの関係ですが、こちらのほうは新規に追加する事務の内容につきましては、組合議会の議会議員、その他非常勤の職員に係る公務災害、または通勤による災害に対する補償、こちらのほうを新規に追加するというものでございます。

それから、組合の議会、こちらに諮るかどうかというのは、こちらでは把握しておりませんが、恐らく諮ることになると思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○副委員長（佐藤 武君） はい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

お願いと確認で、水防の訓練なんですけど、できりゃあ、こうやって本当に草生地区の方が協力していただいて、B&Gもこれは本当に、こういうことは農繁期にかかるときに、全員かかったときにやっちゃうというて本当にしてくれるんで、岡山県から感謝状をもらってやれ言うたら、岡山県は無理って言うて、備前県民局とか、せめて赤磐市長から感謝状ぐらい出せるように、表彰状じゃのうてよろしいから、感謝状ぐらい出すようにしてあげてほしいと思う。

これは、ほんまは田植えにかかるとる、下山さんもこれ地元におるんで、僕らも一緒に土地改良区で26日に川掃除したら、もう28日に水が上がってきて、けんかするようなもんで、水げんかや。そういうこと言うたらおえんけど、本当にやるときに、それも区長が率先して、これだけの人数を出しちゃろうというてやるんで、これが7月とかというたら、まあええがな言うて何とも思わんのじゃけど、この6月のときなんで、いやらしい話、皮肉も言ようるかもしれんけど、ぜひ、県知事からもらえりゃあ感謝状でもよろしいし、市長からだったら市のほうからでも、感謝状でも、ちょっとまあぜひ。そしたら、これをやったということで、ほんなら水害になって、これははっきり言うて、草生地区じゃとか周匝地区、周匝地区はちょっと、草生地区、中村地区、福田地区、稲蒔地区じゃあいうたら、物すげえすぐ協力してくれる。これが例えば言うたら、黒沢じゃあ、黒本じゃあいうたら、もう、ええがなと言うて、この忙しいのにつて出てくる。というのは、今言ようる地区は水害に遭うてしとるから、本当にやらにゃあおえん気持ちで自主的に出てくれとるから、ぜひそういうことも踏まえてやったら、安心・安

全いうて市長がいつも唱えられる話じゃねえけど、物すごい励みになるというかな、そういうことがあるんで、ぜひこれは。きょう結論を出してくれというんじやのうて、もしありましたら、お願いしたいと思っとるんで、お願いします。

それから、総務部のところのくらし安全課のFMの開業、再度FMはいつから開業できるかというのを、令和2年度にラジオを買うたり、中継の集まる場所言うたんじやけど、そうじやのうて、いつ開業できるかというのを、放送の。ざっとでええで。

課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 放送自体は、2月末の工事、事業の完了を受けまして、3月の初めから運用開始できる見込みです。令和2年3月から運用開始の見込みです。ラジオ放送が開始されるということです。

○委員長（北川勝義君） 3月1日からは、まあまあできるということじゃな。

○くらし安全課長（岡本和典君） そうです。

○委員長（北川勝義君） えれえ皮肉、これは6月の議題はいろいろあるんじやけど、これは全額繰り越しじゃなかったんか。1億1,000万円、全額繰り越しじゃろう。違うんかな。

課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 一部、設計費等につきましては、30年度で執行させていただいております。

○委員長（北川勝義君） 30年にしとるんじやな。結果的に言うけど、これはもう決定が、内示が遅かったけえ、こういうことだけの繰り越しと同じじゃろう、さっきの総合政策部にあるような話の。

○くらし安全課長（岡本和典君） そうです。

○委員長（北川勝義君） 一応そうじゃろう、今言うのは。

○くらし安全課長（岡本和典君） そうです、はい。

○委員長（北川勝義君） 違うんか。いや、いや。繰り越しが、明許繰り越しが来とるのは、ほとんどもう、決定が遅かったから、国の。10月とかに決定をくれとるんじやったらええけど、3月31日、3月にくれて、今のプレミアム付商品券と、その話と一緒にじゃろう。

○くらし安全課長（岡本和典君） そうです。追加の分につきましては、3月末の交付決定…。

○委員長（北川勝義君） 追加は何ぼあったんか。ざっとでええ。何ぼ何が追加になったんか。

○くらし安全課長（岡本和典君） ちょっとお待ちください。ごめんなさい。

○委員長（北川勝義君） 待つもんか、あめえ、そんなもん。自分が予算つけてするんじやんもん。きょう自分が定食で頼んだ弁当何なら言うたら、待ていうて言ようたらおえるか。そういうことを言よんで。

まだか。当分かかるんか。

課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 済みません。お待たせしました。

追加の交付決定につきましては、約4,000万円程度でございます。

○委員長（北川勝義君） 何、それは。

○くらし安全課長（岡本和典君） 宇根山中継局、それから山鳥山中継局……。

○委員長（北川勝義君） この間、言ようた分じゃろう。

○くらし安全課長（岡本和典君） はい、そうです。

○委員長（北川勝義君） わかりました。よろしい。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） 今の質問の続きです。5ページのラジオを各小中学校に配られるということですが、ぜひ各町内会とか集会場、一時避難所になっているので、ぜひそこにも配っていただくような計画をしていただければと思いますので。希望です。ぜひよろしく願います。

○委員長（北川勝義君） それは、2年にする言わなんだか、ラジオ買うて。市長が答えようと思うて、1万円じゃ何か。

○くらし安全課長（岡本和典君） 今、おっしゃられたようなことにつきまして、どの場所に何台ということにつきましては、令和2年度予算で計上する計画にしていますので、具体的にはこれから検討させていただきますので、今の委員の御意見を踏まえて検討させていただきます。

○委員長（北川勝義君） ちょっと要らんことを。3月1日からの聞けるわけじゃろう、普通のFMラジオで、要するに。それで今市長が言うた、何か8,000円か1万円か、特別な何かあるんじゃろう、入っとるのが。勝手にスイッチが入る。極端なこと言うと、田んぼに持って行ってこうやって聞いたと言うて、3月1日から入ることじゃな。そういう考えでええんじゃな。

○くらし安全課長（岡本和典君） 通常のFM放送につきましては、3月1日から聞けるようになります。今おっしゃられているのは、自動で起動するようなものについては、令和2年度の予算ということになります。

○委員長（北川勝義君） ラジオやこうは、要らんことを言うけど、うちはもうええで、要らんで、集会所は。ラジオぐらい、一応FMでぺっとスイッチを入れときゃあ入ることじゃけん、それに皆がそこへ常時集まってねえけえ。あるんか。災害になったときに集まるいうて。集まらんわな、うちは。よろしいです。もう要らんこと言うた。よろしい。永徳さんが言うたように、あるところには言うてやってください。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、総務部を終わります。

続きまして、財務部。

○税務課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長。

○税務課長（遠藤健一君） 財務部からは、その他として1件だけです。資料をごらんください。

昨年度、平成30年5月7日から50ccのバイクの御当地ナンバープレート、赤磐市をPRするという目的で予算をつけていただきまして交付をさせていただいております。昨年の5月から交付しておりますが、30年度末をもちまして、今ここにありましており218枚のうち、御当地ナンバーを選んでくださった方が111枚ございましたので御報告させていただきます。

事前に委員長、副委員長さんにも見ていただいたお話の中で、全体で今、50ccのバイクが約1,900台、赤磐市にございますが、その中で交付率としていかなものかという御意見をいただいたと伺っております。当初の我々のほうの見込みといたしまして、年間100枚というふうに見込んでおりましたので、おおよそその目標につきましては達成はできておりますけれども、もっとPRをしたほうがいいのではないかと委員長にも御意見をいただいたというふうにご伺っております。ぜひとも、今後ますますお選びいただきますように進めていきたいというふうにご考えております。

財務部は以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 財務部のほうは終わりました。

何か質問はありますか。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） 125ccまで拡大される予定はありませんか。

○税務課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○税務課長（遠藤健一君） その他の色のプレートにつきましての今後の検討はという御質問というふうに思います。

原付の今の状況と、それからももとのバイクの登録台数でございますが、ちなみに今年度の賦課の状況で申し上げておきますと、先ほど50cc以下が約1,900台と申し上げました。正式に言いますと1,894台でございます、50ccが。それから、50ccから90ccが277台、90ccから125ccになりますか、これが412台と、それからその他のいわゆるミニカーと呼ばれるものが41でございますので、原動機付の自転車としては、今、2,624台。資料として出してございませんで恐縮でございますが、原動機付自転車といたしまして、今年度の賦課がちょうど出ておりますので、2,624台でございますが、大宗を占めておりますのが50ccということでございますので、そのあたりの今後の状況を見ながら、また考えてみてもいいのかなというふうには思っ

ておりますけれど、今のところはそういう状況でございます。

○委員（永徳省二君） 一言だけ。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 一言だけ言っときますね。原付って、やっぱり市内だけ動くケースが多いんですよ。それで125ccとかになると、比較的市外まで、遠くまでやっぱり走りますので、こういう宣伝というのは、市内だけの宣伝よりも市外に対しても宣伝効果はあるのかなというふうに思いますので、ぜひ検討いただければと思います。

○委員長（北川勝義君） あれ、2,000円になったのはいつからかな。2年目かな、50ccは。

○税務課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長。

○税務課長（遠藤健一君） 平成28年度の課税からでございます。

○委員長（北川勝義君） これは要らん話なんじゃけど、何で2,000円にしたんか。それは国の条例か。それは条例の内容が何で2,000円になったんか。いや、いや。事故が多いとか、需要がどうのこうの、何でなったんか。わからんか。

遠藤課長。

○税務課長（遠藤健一君） 申しわけありません。その背景につきましては、私も承知はしておりません。

○委員長（北川勝義君） 僕は、50ccが減ったのは、単純な話なんよ。事故もあったりして、ヘルメットをかぶらにゃあおえんようになったから。ヘルメットをかぶらにゃあおえんから、50ccがもうやめる者が多くなった。要らんような、鍋みたいなのを僕らもかぶったけど、役に立たんけどな。それで減ったんじゃと思います。それが2,000円になったら、そういう事故もあつたけえ、保険のこともあるんかもしれんけど。

僕も1つつくつとるんじゃけど、このあかいわモモちゃんはだせえなと言われたんじゃけど、つけとるんじゃけど、4台、5台ほどあるんか、やっぱり50ccの、今永徳さんが言うた話じゃねえんじゃけど、やっぱり町内、そこらをうろうろするときは50ccで行くんじゃけど、吉井から赤坂まで行こうというのでは50ccじゃ行かんわな。せめて125ccとかぐらいじゃねえと行きにくくなるというのがあって、仁堀に行くのでも。極端な話をしたら、これをつくりゃええんじゃけど、数も今は少ねえのもあつていろいろあるけど、僕はこの2,000円にするのは嫌いだな。オリンピックの分で2020といったプレートが、軽トラ、軽四のプレートが、白いプレートがあるが、ばあつと波みたいなのが入った、ちょちょっと、こう。1,000円高い言うたんかな、やりようするのは、軽四につけるのが。協力するということ。じゃから赤磐市へ、これは要らんことじゃけど、また市長、税務課と検討してもらいたいのは、50ccから上でもええし、50ccでもええんじゃけど、これはこれでええんじゃけど、やっぱりこれに赤磐市の何か交通安全に協力するじゃとか、交通安全に協力するじゃろかなと言うたらおえんけど、交通安全に

協力するとか、赤磐市の何かのPRに、観光に協力するとかというので、2,000円じゃった
ら、2,500円のプレートをつくらとかなというのが、1個おもしれえんじゃねえかなと思よん
ですけど。また、そういうことも財政が、うちはそんなことせんでも財政がええんじゃという
て言やあええんじゃけど、そういうことも使うていただくときに、ほかに使い方もできると思
う。今後、検討していただきたいと、一つ要望、意見を言うときますので。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、次の教育委員会に行きます。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○教育総務課長（安本典生君） それでは、教育委員会の資料をお願いいたします。

教育委員会から、2、その他の案件といたしまして、令和元年6月定例議会提出予定議案に
つきまして2件御説明のほうをさせていただきます。

まず、1件目といたしまして、(1)になります。令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第
1号）案につきましての御説明をさせていただきます。

資料につきましては、6ページから9ページに、歳入歳出予算のほうを上げさせていただ
いております。

まず、教育総務課から4件の事業について、歳入歳出補正についてお願いのほうをさせて
いただきます。

それでは、8ページをごらんください。歳出のほうから御説明のほうをさせていただ
ければと思います。

まず、①の高陽中学校トイレ洋式化改修事業でございます。

こちらにつきましては、昨年度の吉井中学校に引き続き、国の交付決定を受けたもので、国
の学校施設環境改善交付金と合わせまして、合併特例事業債を財源として事業を行うもので
ございまして、事業予算2,790万円を予定しております。

続きまして、②の遠隔教育システム導入実証研究事業でございます。

こちらにつきましても、昨年に引き続きまして国の事業採択を受けまして、遠隔授業を近隣
の大学、また社会教育施設等と小学校をつないで遠隔授業を行うものでございます。本年度
は、昨年の2小学校に加えまして、山陽小学校を追加して事業を実施するものでございま
して、事業予算451万5,000円をお願いするものでございます。

参考の資料といたしまして、10ページのほうへこちらの遠隔教育システム実証事業のイメ
ージ図のほうを添付しておりますので、ごらんいただければと思います。

続きまして、③の山陽ふれあい公園改修事業になります。

8ページのほうへお戻りいただければと思います。

こちらの事業につきましては、事業採択を受けました国の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金と合わせまして、合併特例事業債を財源として、山陽ふれあい公園に太陽光発電、空調設備等を設置する改修事業のための事業予算、本年度は設計委託料といたしまして2,630万円をお願いするものでございます。また、工事につきましては、来年度実施の予定でございます。

続きまして、歳入のみの財源更正になりますので、6ページ、7ページのほうをごらんください。

学校施設の非構造部材の耐震事業についてでございます。

当初予算に予算化しておりましたが、国のほうの学校施設環境改善交付金の内定を受けましたので、そちらと合わせて、緊急防災・減債事業債から学校教育施設等整備事業債への財源振り替えをお願いするものでございます。6ページの1番のところの、学校施設環境改善交付金の下の段になります。また、起債につきましては、市の財源でございますが、7ページになります。一番下の6の緊急防災・減債事業債のほうを当初予算では計上しておりましたが、こちらを減額させていただきまして、7ページの上のところの④の学校教育施設等整備事業債のほうを振りかえとして計上させていただくものでございます。

それでは、済みませんが、11ページのほうをごらんいただきたいと思います。

山陽ふれあい公園改修事業につきまして、少し説明のほうをさせていただきます。

山陽ふれあい公園につきましては、赤磐のスポーツの拠点となる施設であるとともに、市の防災計画に避難所として指定をされております。また、高台に位置し、駐車場も確保できることから、災害時の市民の受け入れなどに大きな役割が期待されている施設でございます。

しかしながら、停電対策などがなされていないために、災害時には停電等により、照明、空調設備が使用できないというような避難環境に対する課題等もございました。こちらにつきましては、改修計画などについてはスポーツ整備計画にも位置づけをしております。

このたび、環境省の防災拠点施設の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金と起債を活用して、避難所機能の強化として、ふれあい公園体育館の改修を行うものでございます。

改修内容につきましては、温室効果ガス抑制として、メインアリーナ等の照明をLED化し、また避難所の強化機能といたしまして、メインアリーナ等に空調設備を設置いたします。また、こちらのLEDとか空調設備につきましては、停電時にも継続的に使用できるように、照明につきましては太陽光発電とあわせて蓄電設備を整備し、また空調設備につきましては内蔵バッテリーを備えた自立型のガスエアコンを整備するものでございます。

今回、ガスエアコンを選定した理由といたしまして、メインアリーナ等に大きなエアコンを設置するということになりますと、基本料金のほうが上がってまいります。この基本料金の増加分をいかに少なくするというような問題もございまして、その電気使用料のほうから切り離しをして、ガスエアコンにしてランニングコストを抑えたりするというところで、今回、ガスエ

アコンのほうを選定しております。この使い方については、経常的に使うのであれば電気のほうもいいのかなどという感じではございましたが、まだ試算等は細かくはできておりませんが、使う回数によって1回スイッチを入れただけで、毎月プラス10万円から20万円の基本料を1年間払い続けなければならないというようなことも発生するというところで、今回ガスエアコンのほうで、電気と切り離して基本料の増加分などを抑えるようなことも考えております。

長くなりましたが、教育総務課からは以上でございます。

○学校教育課長（家森康彰君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（家森康彰君） 続いて、9ページをお願いします。

学校教育課からは、県の委託事業として、今年度から中学校において教科化された道徳の指導力向上等の研究授業を行うもので、歳入歳出同額の36万円の補正予算をお願いするものでございます。

以上です。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○教育総務課長（安本典生君） それでは、資料のほう、一番最後、12ページをお願いいたします。

2のその他の(2)平成30年度赤磐市一般会計予算繰越明許費（案）についてでございます。

こちらのほうにつきまして、教育委員会からは、12ページの1の繰越計算書の中にあります(1)から(2)、(3)まで3件の事業につきまして繰り越しのほうをさせていただきたいと考えております。

こちらにつきましては、それぞれ事業採択のほうが年度末であったり、事業が工事その他の影響があるということで、繰り越しのほうをお願いさせていただいております。

簡単ではございますが、教育委員会からの説明は以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 教育委員会のほうから説明が終わりました。

何か質問はありますか。

ちょっと思うたんじゃけど、繰り越ししとるところの熊山運動公園の整備が7月31日じゃけど、8月の何日からだったかな、来る言うたのが。

○教育長（内田恵子君） 4日です。

○委員長（北川勝義君） 4日じゃったんかな。じゃから、それもあるから、なるべく早く業者のほうへ言うて、余裕を持って、きょう片づけ終わったんじゃというような。やってもらいたいなと思うんで、お願いします。

それでは、次に消防本部。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） その他、6月議会定例会提出議案のポンプ自動車更新事業から御報告申し上げます。

1 ページをお開きください。

令和元年度に更新予定のポンプ自動車は、入札が平成31年4月24日に行われ、4,042万9,380円で東洋ポンプ株式会社が落札しました。仮契約を4月26日に済ませており、6月議会で議決をいただいた後、本契約とし、令和2年2月28日の納車予定で進めさせていただきたいと思っております。

続きまして、赤磐市火災予防条例の一部改正についてでございます。

内容としましては、住宅用防災警報器の設置免除に関する事項ですが、従来、民泊施設において、自動火災報知設備を基準どおり設置した場合には住宅用防災警報器の設置が免除となっており、特定小規模施設用自動火災報知設備を設置した場合はこの設置免除の規定がなかったものを、今回の消防庁通知により設置免除が可能になったため、本条例の一部を改正するものです。

また、避雷設備に関する事項は、不正競争防止法等の一部を改正する法律において、工業標準化法が産業標準化法に、日本工業規格が日本産業規格にそれぞれ改められたことに伴い、本条例文の一部を改正するものでございます。

提出予定議案は2件でございます。

次に、第66回岡山県消防操法訓練大会についてでございます。

日時と場所にあつては、明後日の19日日曜日、東区瀬戸町肩脊にございます岡山県消防学校にて開催されます。出場順位が16番目と決まりましたのでお知らせをいたします。つきましては、当日の12時に市役所発のバス便を御利用の上、壮行式に御臨席いただき、赤磐市代表選手に激励のお言葉をいただきたいと思います。出場予定時刻は13時30分前後でございます。お忙しい時期とは存じますが、足をお運びいただけますようよろしくお願い申し上げます。

続きまして、消防団無償貸付車両の決定についてでございます。

総務省消防庁国民保護防災部地域防災室からの通知により、全国で多発している台風や集中豪雨、土砂災害等の大規模自然災害に備えるため、地域防災力の中核である消防団の設備強化を図ることを目的とし、消防団車両の無償貸付希望の調査がありました。要望を提出しましたところ選考に通りました。総務省消防庁が7月上旬に契約後、車両の作製に取りかかりまして、令和元年12月以降に赤磐市に納車となる予定でございます。エンジンカッターやチェーンソー等の積載資機材の取扱訓練を市役所職員と十分に実施した後、本部機動部車両とし、本庁配備を予定しています。

消防車の仕様につきましては、次ページにイメージ写真を掲載しております。2トン車ベースのポンプ車に救助資機材を積載したものです。この車両により、赤磐市消防団の災害時の機

動力が高まることを期待しております。

以上、簡単ではございますが報告を終わらせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 消防本部のほうの説明が終わりました。

何か皆さん、意見はありますか。

大口委員。

○委員（大口浩志君） この最後の無償貸付車両の関係で、これが配備をされたときに伴い、車庫の整備もセットで出てくるようになるんですかね。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 本部車両を無償貸し付けでいただいた後は、29年使用した車両と入れかえというような形で、今ある車両を廃車の方向に持っていきたいと考えております。

○委員（大口浩志君） 車庫に入るんですか。今のままで。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 今の車庫に入る予定でございます。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（大口浩志君） はい。

○委員長（北川勝義君） 僕のほうがちょっと聞いたんで、腹立たしいんで、ちょっと。

消防車のことで、これも13日に打ち合わせをして、何者ならということで、森田ポンプと東洋ポンプ、2者だということで、東洋ポンプと仮契約したと、それは結構なんです。そのときに、入札率か落札率を教えてくださいと、こうやって言ったら、教えますと。これは質疑じゃから、こういうことは必ず出てくるからやってくれと言うたら、私のところへたしか、ちょっと違うたらおえんけど、15日に電話があって、消防長から電話があって15日じゃったかな、14日、消防長から電話があって入札率やこうやりようたら、本体価格がわかるからいけんのんじゃというて電話があって、ほんなら勝手にせえと僕は言いました。このとおり言いました。何がおかしいんですかね、入札率がわかって。

消防ポンプというのは、トヨタか日産かいすゞかもしれんけど、元総務委員長の下山さんは知っとるわな。森田ポンプ、東洋ポンプ、それからまたもう1者ぐらいがある。積載して1つの自動車になって出てくるわけ。それを設計できるんですか、あんたらが。設計金額どうのこうの、わかったらおえんいうて。設計は東洋ポンプとか森田ポンプが設計して出てくる金額じゃねえんかな。わかりやせまあがな。入札率を出さん言うて、管財課に聞きてえんじゃ。入札するときに根拠がなかったらいけまあがな。

例えば、1,000万円のもんじゃと設計して、どれをとっていくとか、何でもええ、土木でも

ええ、建設でもええ。機械部分は例えば500万円になりました、ポンプ部分は700万円になりましたで、計1,200万円になりましたと。それが価格で、そこの予定価格というのは、それについて97%にするとか、98%にするとかというのはやりますが。これは、設計業者が土木とか持ったり、建築でも持ったら建築設計士がこしらえたらできてくる。これは、ほんなら誰が設計するのかな。行政の職員がこれを設計できるのか。設計料やこうはねえよ、これの設計料やこうは、購入の。今までは、入札率もびちつと言うて、落札率も言ようたのに、なぜ今回言わんのか。財務部、どういう考えなら。これは言うちやおえんことになつとるんか、何か秘密のことに何かなつとるんか。公表してねえけえ、言うちやいけんようになつとるんかな。消防長が言われたんじゃけど。

それは納得を今僕は、今まで僕も、割合ハードな事業もようしてきたんじゃけど、そういうことは。それから、今までやりようたときの、必ず入札したときに、何者で入札でしたかというて聞かれようる、本会議でも。それで何ぼですって委員会のとき聞かれて、答えれんというのは、何が根拠で答えれんのか。ちょっと教えてくださいよ。答えたら、財務部長、何か問題があるんか。わかるんか、今言ようる質問が。

戸川課長。

○管財課長（戸川邦彦君） 入札の結果について、工事については価格を事前公表させていただいているんですけど、それ以外のものについては、入札結果についても、予定価格は公表させていただいておりません。一応、その入札の参加者でありますとか、入札の入れ札の金額でありますとかというのは、市のホームページでも見れるように公表させていただいております。

その際、結果の中には予定価格を公表させていただいていないものですから、その結果表の中に予定価格が入っていないということでございます。

○委員長（北川勝義君） そんな話は聞きようらん。落札価格が何で公表できんのんならいうて言よんじゃ、入札率と落札率が出せれんのんと言よんじゃ。予定価格、ほんならこの金額の4,100万円とか、誰が決めたんな。4,500万円って決めた金額。予定価格のもとの実施設計じゃ、実施設計価格は何ぼなら。誰が出せるんなら。実施設計を出せるわけがなかろうがな。

このボールペンを何ぼいうて決める、これは1,000円じゃと、1,000円という実施設計の設計が出せるわけがなかろうがな、この能力で。業者の見積もりとか、例えば3者、5者とか見積もりした中で真ん中をとるとか、建築じゃったら一級建築士が設計する、土木じゃったら土木の一級土木士が設計していく。それを、コンサルが入つとるんじゃねえんじゃから、なかろうがないうて言よんじゃがな。落としたんじゃったら、予定価格は何ぼ、落札率は何ぼいうて、これを聞きようるがな、今までにもやってきたがな。今度は友實が2期目、3期目になって変えてきよんか。出さんようになったんか。今までの救急車も出しとるじゃねえか。どうしてならいうて聞きようるんじゃ。出してきとるじゃねえか。予定価格はええ、言わんでも。予定価格

のものと実施設計をどうやって出すんなら。実施設計ができなったら予定価格やこうできりゃあせんぞ。誰が予定価格を決めれるんなら。車のエンジニアか、あんたらは。車が何ぼでできる、誰が決めたんなら、この実施設計のものと金額。教えて、それを。もとの金額をこしらえたのは、どうやってこしらえたんか。友實市長がこれでせえ言うたんか。5,000万円にしとけと言うたんか、どうしたんなら。根拠を教えてくれ。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 檜原課長。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 見積書をいただいて、最終的には決定をしたんですが。

○委員長（北川勝義君） どこからもろうたんなら、見積書を。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 東洋ポンプと森田ポンプです。

○委員長（北川勝義君） 森田ポンプじゃろうな。何を眠たい話をしょんなら、おめえ。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 消防職員が仕様書を作成いたしまして、それに対して見積書をいただいて、そこで決定いたしております。

○委員長（北川勝義君） 泥縄じゃがな。やる者がやりよんじゃがな、使う者が。売る者が買う者をやるのと同じじゃねえか。

ほんなら、これから入札するんじゃったら、管財課もそれがええいうて言うんじゃったら、財務部もええんじゃったら、これからこういう建物、1億円の建物をするんじゃったら、設計屋さんじゃのうて、建物を建てる建築屋さんには何ぼですかな言うて相見積もりをとってやらせえ。土木もそうさせりゃあええじゃねえか。今、へ理屈を言よんじゃけどわかりようるか、おめえ。相見積もりを取って、相見積もりを取った業者は入れないとかいうて見積もりを出したところの業者は、見積もりを出した業者が見積もりを取ってやる、こんなおかしげな話があるわけがなかろうがな。こんなもん、おめえ消防じゃから、昔で言うたら人権に係る同和問題とか消防や教育はタブーじゃと、一切触れるな言うた。じゃから、そうじゃないと言ようるじゃろう。金額が違うたらぴちっと言うて、予定価格は公表できんのんですと、しかし落札価格は何%でしたというのは、出してもええんじゃ、それは。積算がねえんじゃけどそれが出せれんというのは、どうして出せれんのんなら。ほんなら、今までやりようた消防長はみんな間違いをやってきたんか。歴代の市長はみんな間違うたことしてきたんか。歴代の委員長はそれを公表してきたんか。言うてみい。ふざけるんじゃねえぞ、おめえ。はっきり答弁してみい、おめえ、これはもう構わへんから。

僕はもう、これを言うたのは、消防団の無償の車両の貸し付けやこうでも、エンジンカッターや油圧ジャッキを使うたりするから、本部機動部というたら市役所の職員じゃから、よう納得しとるよ。訓練してやってくれと、事故が起きんように、事故が起きたら困るからいうていう話もして。それはしますってきょう言うてくれたけえ、それは一つ進歩しとるけえええけ

ど。どうしてなら、それは。そんなことができるんじゃないやとてみんせえ。僕はここでくじをくりよんじやのうて、意地になりよんでもねえ。

これは、例えばほんなら、2者指名しとって、1者来てなかって1者になつたりするがな。1者入札で、100%で来てとてみい談合と一緒じゃあ。言わにやいけんのんじゃあ、これは。そんなばかなこと。まさか、友實市長がそういう指導をしようんじゃねえんじやろう。市長、そういう指導をしょんかな。出すな言うて、公表すな言うて。これ、聞いてみい、おめえ、公表いうたらどこも今までやってきてとるじゃねえか、赤磐市が。今回だけ急遽と言うんじやったら、これからするな、おめえ。

井元消防長、どねえ言われたんか、ちょっと言うてくれ、言うたとおり。どう言うたんかな。

井元消防長。

○消防本部消防長（井元官史君） 私がとりあえず管財課からお聞きしとるのは、落札率、これを公表することによって、入札予定価格、こちらのほうがわかると。それで、一般競争入札では……。

○委員長（北川勝義君） わかった、わかった。皆わかっどるが、森田ポンプと東洋ポンプが見積もりを出してきてとるのはわかっどるじゃねえか。違うところの、佐藤ポンプが出したとか、北川ポンプが出したんじやったらええよ。何を言よんなら、入れたところが出してわかって。

それから、わかったらどうしたんなら。わからなんだらいけんじゃねえか、我々が。何%で落札したかわからなで、1万円でももう同じじゃけど、何千万円も4,000万円ものを買ってきて、何ぼなら言うたら、落札価格、さあ知りません、予定価格がわかったらおえんけん言わんのですって、そんなばかな話があるわけねえがな。それが地方自治法のどこが違反なら。違反じゃったら、過去みんな違反してきてとるじゃねえか。議事録、見て言よんじやろうな、消防長。今までの過去の。

市長、どんなんですか、これは。今まで市長のときも落札率を言うたよ。消防車も救急車も。この間の積載車もやったろうがな。総務文教委員会、見に行つたがな。あれのときもしたるがな。あれのときは言うて、これだけわかっちゃおえんのは、何か意図があるんか、これだけわかっちゃあおえんというのが。

市長、これだけ報告せんというたら、意図があるんかな。

○市長（友實武則君） 知りません。

○委員長（北川勝義君） いや、意図があるんじやったら、意図があると言え。これだけは隠しとかにやおえんのじゃ、公表できんのじゃ、そんな話じゃねえぞ、おめえ。僕らはええ意味の、入札したら、興味があつたら、入札で業者がどうや、何者しましたか、幾らで落ちましたか、入札率は何ぼですかいうぐらいは委員さんが聞かれるがな言うたんじや。聞いたときに答

えとかにゃあおえんと、それを言うた。

○委員（下山哲司君） そういうあれなんですけど、入札の責任者は副市長じゃろう、市長じゃなしに。

○委員長（北川勝義君） そんなはことええ。おえんよ、消防長が言うたから、今言よんですよ。副市長が答えてくれれば。今まで答えたのはえかって、今回だけおえんのんじゃというのがあるんかというて聞きょうるんじゃ、わし。予定価格がわかったけんいうて、別に予定価格がわかって何か問題があるんか。

○財務部長（藤原義昭君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 部長。

○財務部長（藤原義昭君） ちょっとお時間ください。精査させてください。申しわけございません。

○委員長（北川勝義君） 精査することはねえがな、おめえ。

これが、設計屋がしたとか土木がしたとか、役場で。僕らもしょうた、設計を。自分で積み上げた設計を、コンクリート何ぼ使ういうて全部やってから。それがわかるんじやったらいけんで、なあ、市長。代価表が出ていきょんじやったらおえんよ。積み上げていきょうて、経費やこうのはわからんようにしてあるわな、それは。それを言うのは何が問題があるんなら、おめえ。業者から見積もりしてから。

まあ、よろしい。

こねえなことを言うんなら、これからはなかなか承認しにくくなるから。また後で教えてくれるんじやったら、よろしい。

他にありませんか。

委員皆さん、何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで終わりたいと思います。

第6回総務文教委員会を閉会しますので、閉会に当たり、教育長のほうから御挨拶いただきたいと思ひます。

○教育長（内田恵子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 内田教育長。

○教育長（内田恵子君） 新しいメンバーになっての第1回目の総務文教常任委員会となりました。本日も事業の進捗状況に対しまして、市民目線のいろいろな御意見をいただきありがとうございました。また、6月の提出議案につきましての御検討もいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

○委員長（北川勝義君） はい、御苦勞さんでした。

午後0時10分 閉会

